

5月22日 ヨハネによる福音書16章12～24節 今日の説教から

説教題：「天へと昇るイエス様」

今日の聖書箇所は、先週の箇所と同じく最後の晩餐の後の「告別説教」の部分です。この後の17章ではゲツセマネでの祈りがあり、その後18章でユダの裏切りが実現してイエス様は逮捕されることとなります。つまり、この告別説教でイエス様は、十字架につく前に弟子たちに伝えるべき言葉をすべて伝える必要がありました。彼らが復活のイエス様に出会い、伝道の業へと歩み出すためにも、イエス様は最後に大切なことを伝えようとしています。

先週の箇所では「わたしはまことのぶどうの木である」という言葉によってイエス様と繋がっている事が求められ、その後に語られた迫害の予告では、キリスト者として与えられる多くの迫害を乗り越えてほしいというイエス様の思いが弟子たちに伝えられました。そして今日の箇所では、イエス様の十字架によってこの世に与えられることになる「聖霊」について記されています。

イエス様の復活を受けて、聖霊降臨日における聖霊を受けて、弟子たちによる宣教の業ははるか遠くへと広がっていきました。異なる言語を話す「異言」という力によって、人々を結び合わせる「絆」の力によって、そして今日の16章で語られている「弁護者」としての力によって、今もなお私たちに力が注がれています。ただ、それらが完全に与えられたのであれば来るであろう、教会や国家などの支配関係・上下関係という地上的な秩序から解放される時代がなかなか来ないことに、焦燥感を覚えてしまうことがあります。

イエス様が逮捕された時の弟子たちも、同じような焦燥感を覚えたのかもしれませんが。イエス様はユダの裏切りによって逮捕されて、十字架につけられました。その時、ユダヤ人に殺されることを恐れた弟子たちは皆逃げだしてしまいました。ただその時、弟子たちとしてはむしろ「イエス様に見捨てられた」と感じたのではないのでしょうか。「イエス様は私たちと共に宣教の旅をしてきた。これからもそれを続けて、いずれは王様として私たちを導いてくれるんだ」、そう思っていたイエス様が素直にユダヤ人たちについて行くのです。あれだけ情熱的に語っていたイエス様が、何も言わずにユダヤ人に連行されます。まるでそうなると思っていたかのような口ぶりは、いっそ自分から逮捕されに行ったようにも見えます。

イエス様は私たちのことを見捨てるのか、もう私たちと神様のことを人々に宣べ伝えるつもりはないのか、そう思うしまうほどに、イエス様を失った弟子たちの哀しみと失望は大きかったことでしょう。しかし、そうではないのです。イエス様の十字架は私たち人間の為であり、私たちキリスト者がその罪から救われるために必要なことでした。イエス様を信じるその信仰によって神様から「義」であるとされ、救われるべき存在として選ばれることとなります。それを実現するためにも、イエス様は十字架へと歩む必要がありました。

さらに、イエス様が復活の後に昇天したという事実は、イエス様と同じ道を歩む私たちが「同じく天へと導かれる」ことの保証へと繋がります。私たちは、土に埋めていた体がゾンビのように動き出すのではなく、新しい霊の体で天へと導き上げられることとなります。それが、私たちに先駆けて天へと昇り、神様のもとへ行ったイエス様によって証しされています。いつかイエス様と神様と共に神の国で過ごすことが出来る、その希望が示されているのです。だからこそ、私たちにとってイエス様の昇天は祝うべき喜ばしい出来事なのです。

イエス様は、天に昇りこの世からいなくなったわけではありません。「インマヌエル」「神は我々と共にいる」という名を持つイエス様は、時を超えて、場所を超えて確かに私たちと共にいます。時に私たちを導き、私たちの祈りを神様に執り成し、そして私たちが心折れた時にはその歩みを支えてくれているのです。その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書16章12～24節

- 12:言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」
- 17:そこで、弟子たちのある者は互いに言った。『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』とか、『父のもとに行く』とか言っておられるのは、何のことだろう。」また、言った。『しばらくすると』と言っておられるのは、何のことだろう。何を話しておられるのか分からない。」イエスは、彼らが尋ねたがっているのを知って言われた。『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』と、わたしが言ったことについて、論じ合っているのか。はっきり言っておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねない。はっきり言っておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」